



じぶん せいかつたの
～ 自分の生活楽しんでますか? ～



CONTENTS

P2 要望書提出の報告

P4 Oh - Life!!

P6 ぶるーむ米作ってみた

P9 活動報告

◆「ぶるーむ」の由来◆

英語のbloomをひらがな表記したものです。

bloomには、「(花が)咲く」「(才能・事業な

どが)花開く」などの意味があります。この

北九州の地で、自立生活の土壌をあらため

ておこすことから始め、それぞれの自立生活

の種を植え、色とりどりの自立生活の花が咲

きほるといふ願いをこめました。

ねん がつ にち きゅうしゅう えき むじんか もんたい かん てつどうじぎょう しょかん こくど
2017年9月5日、JR九州の駅の無人化問題に関して、鉄道事業を所管する国土
こうつうしょうきゅうしゅううんゆきょく ようほうしょ ていしゆつ
交通省九州運輸局に要望書を提出しました。

おも ようほうこうもく い か
主な要望項目は、以下のとおりです。

こくどこうつうしょう きゅうしゅう たい
まず、国土交通省からJR九州に対し、

えき むじんか いじょうおこな
①駅の無人化をこれ以上行わないこと。

え えき むじんか ばあい あんい かじゅう ふたん しゅちょう
②やむを得ず駅を無人化する場合は、安易に「過重な負担」を主張せず
だいたい そち しんし けんとう しどう
代替措置を真摯に検討すること。などを指導してほしい。

むじんか えき かんりうんえい じちと おこな じれい あ
さらに、無人化された駅の管理運営を地元のNPOが行っている事例を挙げて、

じちとしちょうそん せっきょくてき てつどうじぎょうしや ちいき しみんだんたいとう
③地元市町村がより積極的に鉄道事業者と地域の市民団体等をつなぐコーディ
きのう にな こくどこうつうしょう しちょうそん はたら
ネーション機能を担うよう国土交通省から市町村に働きかけてほしい。

たい きゅうしゅううんゆきょく
これに対し、九州運輸局からは、

えき むじんか じたい きょにんかじこう
①駅を無人化することそれ自体は許認可事項ではないので

むじんか い
「無人化しないように」とは言えない。

だいたい そち けんとう さい そ けんせつてきたいわ つと
②ただ、代替措置の検討の際にガイドラインに沿った建設的対話に努めるよう

しどう ようほうじこう きゅうしゅう つた
指導することはできるので、いただいた要望事項はJR九州に伝える。

かいとう
という回答がありました。

今回の要望書に関しては、九州各県の10の自立生活センターの賛同をいただき、九州の自立生活センターの総意として渡すことができました。賛同いただいた自立生活センターのみなさん、ありがとうございました。これからもこの問題の解決にともに取り組んでいきましょう！

今後、あらためてJR九州に話し合いの再開を求め、建設的な対応を引き出していきたいと思います。

なお、当日は西日本新聞社と朝日新聞社から取材を受け、それぞれ記事が掲載されましたのでご紹介します。

(了)

2017年(平成29年)9月6日(水) 西日本新聞

無人駅増えぬよう
障害者団体が訴え
運輸局に指導要望

JR在来線の無人駅を急増
り、車いす利用者らでつく
る北九州市のNPO法人
「自立生活センター」が
5日、福岡市博多区の
九州運輸局を訪れ、JR九
州に無人駅を増やさないよ
う指導することを盛り
込んだ要望書を提出した。
ふるーむは3月、同様に無
人駅増えぬよう求める2万
9千人分の署名を提出した
が、合理的な配慮がないこ
として、要望書提出を求めた。
要望書ではこのほか、無
人化する場合は障害者との
平等性を保つための指導
や、市町村が無人駅の運営
に関与するように働きかけ
ることを求めた。

同社管内では、在来線駅
のうち半数以上の297駅
(5日現在)が無人駅。同
社は、車いす利用者など支
援が必要な乗客が無人駅を
使う場合、前日までの予約
を求めている。ふるーむは
「障害者にはない利用制限
を付することは、障害者差
別解消法に反する」と主張
している。

要望書を受け取った運輸
局の鎌ヶ江伸一計画課長補
佐は「JR九州に真摯に対
応するようお願いする」。
ふるーむの後郷法文代表は
「自由な移動は、障害者が
地域に根ざすことにつなが
る。JR九州には歩み寄る
姿勢を示してほしい」と話
した。



駅無化の指導性を
求める要望書、九州運
輸局の担当者へ提出する
車いす障害者たち

2017年(平成29年)9月6日(水) 朝日新聞

JR駅の無人化
障害者らが反対
九州運輸局に要望書

JR九州が進めている駅
の無人化に反対する要望書
を、障害者自立支援団体の
「NPO法人自立生活セン
ター」ふるーむ(北九州市)
が5日、九州運輸局に出し
た。障害者が駅員のいる隣
接駅での乗車を求められる
など、移動の利便性が損な
われていると訴えている。
ふるーむ側はJR九州に
職員がいない場合の代替措
置なども提案してきたが、
話し合いは進展せず、同局
からJR九州に指導や勧告をす
るよう求めることになったと
いう。同局の担当者は「運
輸局に許認可の権限がある
事例ではないが、交通弱者
に不便がないよう日頃から
指導しており、要望書の内容
はJR九州に伝える」と話した。
車いすの障害者ら8人と
ともに同局を訪れたふるー
む代表の後郷法文さん(48)
は「JR九州にとって利益は大
切だと思うが、鉄道の公共
性をもっと考えてほしい」
と話した。(原篤司)

Oh-Life

第18回 足なんてただの飾り・・・？

KII

僕は「脳性麻痺」という障害なのだが、一口に障害といっても、人によって症状は様々だ。僕は、この障害の影響で手足が不自由で車いすでの生活なのだが、僕の学校の友達は、同じ障害にも関わらず、自力で歩くことができている。まあ歩くといっても、高機動なアシモみたいな感じなのだが。

この夏、その障害のある友達や健全の友達と一緒に焼肉を食べに行ったのだが、この時のことがなかなか面白かった。

まず小倉駅に集合してから焼肉屋に行くのだが、当然、その道中では各々の近況報告になる。話を聞いている感じでは、僕以外の3人は定期的に集まっていたようである。その集まりに僕がいないことはどうでもいいことなのだが、僕が気になったのは次の話題である。

この話の流れで「今度はみんなでスキーにいこうぜ！」という話がなんとNくん(同じ障害のある友達)からでてきた。どうやらスキーはNくんにとって数少ない普通のできるスポーツらしい。まあ単純に、板を履いて多少歩けば、あとは滑るだけなのだが、そう単純にいくものだろうか？ 僕からすると不思議な話である。「KIIくんも一緒に行かん？ ソリとかならできるよ」と誘われた。まあ確かに、雪山で僕のできる事が無いわけではないが、少し想像してみたい。みんながスキーを楽しんでいる横で、一人別メニューをやっている僕の姿を。外から見るとには面白いかもしれないが、その場にいる僕はたまったものではない。高校の修学旅行の悪夢の再来である。流石に自分でお金を払ってまで行きたくはない。

そんなこんなで、場面は焼肉後の会計時にうつる。流石に働き盛りの男どもが4人もいると(Nくんは普通に働いている)、仕事や趣味の話で盛り上がりつつも、肉やお酒も飛ぶようになくなっていく。きつと食べ飲み放題とはこういう時のためにあるだろう。僕は飲み物はウーロン茶1.5杯ぐらいしか飲めなかったのだが(笑)

Nくんはよく酒を飲みよく食べていた。僕は、こんなに飲み食いした後歩くのは大変じゃないか？とふと疑問に思い、本人に直接聞いてみた。彼の返答は笑いながらの一言だった。「はあ？お前馬鹿にしてるのか??」僕としては真面目な質問だったのだが、彼にとっては特に気にされるようなことでもなかったのだろう。なぜか若干イラッとした僕だったが、自分の障害をこれぐらいに扱えないと普通に働くことは難しいんだなと妙に合点がいったことを覚えている。

そして極めつけに、小倉駅への帰り道で彼は「俺、車を出せるから、行きたい所があるならどこか連れて行ってやるよ。」と僕に言ってきた。彼は障害があるとはいっても、上肢には影響が無いので、車の運転も問題なくできるのである。ちなみに、彼も僕と同じような趣味をしているのだが、彼は健常者と同じレベルでゲームができるし、作ったガンブラが全て内股になっているようなこともない。そもそも同じ脳性麻痺という以前に彼は障害者なのだろうか。

まあ、こればかりは「障害の重さ」で症状が違うので、比べたところでどうしようもない。なので、自分の出来ることを地道に努力していくしかないのである。だが、学生の時「KⅡくんはNくんよりも努力が足りないんじゃないか」「Nくんの方が明るくて活発で見てて清々しい」という不本意な評価をされてしまうことが多かった。前者はともかく、後者は、障害者にインスタ映え的なものでも求めているのだろうか？多感な年ごろにこの評価は流石にキツイ。だが、複雑な気持ちの僕にNくんは「同じ障害者同士、仲良くしようぜ」と笑顔で言うてくるのである。火に油を注ぐというか、傷口に塩を塗るといふか・・・本当に困った奴である。

書いているうちに何故かイライラしてきたので、今回はこらへんで締めようと思う。今回は僕目線でNくんのことを書いていたので、少し補足をしたい。車を運転できることもNくんがやりたいことをやり、努力をした結果である。きっと、僕には僕の努力や悩みがあるように、NくんにはNくんの努力や悩みがあるのだと思う。

なんとなく気付いている人もいると思うが、僕は、Nくんのことをどう思ってるかはみなさんの想像におまかせする。といっても、お互い趣味の路線が一緒に、長い付き合いな友人？というのはなかなか貴重である(諦)なので、障害の差などは別にして、お互い頑張り方で良いのかなと思う今日この頃である。

ぶるーむ米^{まい}作^{つく}って^くみた!

まず 1年間^{ねんかん}ツトムと個人的な^{こじんてき}時間^{じかん}を使い、お米作り^{つか}をしてきたことは素晴らしく^{こめづく}有意義^{すば}で楽しい時間^{じかん}でした。始める前は「大変よ」「キツイよ」「割に合わない」といったお言葉を多数いただきました。自分の目的が単なるお米作りではなく少し違^{ちが}ったからか、ツトムという相方^{あいかた}のおかげなのか、はたまた両方^{りょうほう}なのか。今^{いま}となっては、楽しかった^{たの}のでどちらでもいい感じ^{かん}です。

研修^{けんしゅう}終わりにお米作り^{こめづく}のことで、事務所^{じむしょ}の中で話^なをしていた時のこと^{とき}です。畑^{はたけ}を自分で^{じぶん}されている介助者^{かいじょしゃ}の「農作業^{のうさぎょう}は楽しいですよ」という話^{はなし}をきいて、「そうなんだ」と相槌^{あいづち}うっていたのですが、自然^{しぜん}の中で、作業^{さぎょう}も単純^{たんじゆん}なものが多い^{おお}らしく、もともと自然^{しぜん}の中で泥や土^{なか}にまみれて遊ぶ^{あそ}ことが好き^すな私^{わたし}は興味^{きょうみ}を惹かれましたが、「マメに見^みに行く時間^{じかん}もないしなー」と考えて^{かんが}ました。しかし・・・

「お米^{こめ}とかあまり手間^{てま}がかからず^{もう}に儲^でけもそこそ出^こるらしいですよ」って言葉^{ことば}で「ほう?」と思^{おも}いました。そこから農家^{のうか}の息子^{むすこ}が稲作^{いなさく}の良^よさやら、思い出^{おも}いやらをべらべら喋^{しゃべ}りだして、私^{わたし}の頭^{あたま}の中^{なか}に美^{うつく}しい田園^{でんえん}風景^{ふうけい}が広^{ひろ}がり、気分^{きぶん}もノって^いきました。以前^{いぜん}から農作業^{のうさぎょう}をやっている作業所^{さぎょうじょ}や福祉^{ふくし}団体^{だんたい}があるの^しは知^しっていましたし、今^{いま}のぶるーむは知的^{ちてき}や精神^{せいしん}の方^{かた}々^{がた}との関係性^{かんけいせい}や支援^{しえん}が薄^{うす}いと感じ^{かん}ていた^{けいけん}ので、経験^{りかい}や理解^{こうりゆう}、交流^{きかい}するの^{かん}にいい機会^{きかい}ではないかと感じ^{かん}ました。

しかし、まだこの時^{とき}は何^{なん}となく知^しり合^あいに貸^かしてもらえ^たる田んぼ^{さが}を探^{さが}してもらっているだけで^いました。日本^{にほん}の第^{だい}一^{いち}次^じ産^{さん}業^{ぎょう}は担^{にな}い手^て不足^{ぶそく}が問^{もん}題^{だい}になっ^て、休^{きゅう}耕^{こう}地^ちが増^ふえているので貸^かしてくれ^る土地^{とち}があるの^{かんが}ではないかと考^{かんが}えていま^しました。すると、二週^{にしゅうかん}間^{かん}ほどで門^{もん}司^じの恒^{つね}見^みに貸^かしてくれ^るそ^うな土^{とち}地^みが^みつかり^ました

さっそく下見に出かけました。普段車の通りの多い場所で長く過ごしているので車の音がなく、聞こえる音は鳥のさえずりぐらいしか聞こえないことがとても新鮮で気持ちよかったです。紹介してくれた方と落ち合い貸してくれる土地について説明してもらいました。話によると稲作は難しくなく、水の出し入れと草刈りぐらいで、やることはそんなにないとのことでした。実際の田んぼは、一年前から耕してなく、ただの野原でした。静かで綺麗な田んぼの横で飲んだコーヒーがとても美味しかったのを覚えています。その時やってみようと思いました。



土地の地主さんと交渉して5面（2, 5反）を借りることができました。初めてチャレンジする稲作にぶる一むの予算が下りるわけではなく、自費チャレンジすることになりました。正直いくら回収できるかはさっぱりわかりませんし1年間楽しめればいいかなーと思ってました。



さっそく田んぼの水路を作ったり、畔の草刈をやったりと作業を開始しました。そして相方探しの開始です。目標の一つは当事者と一緒にやることです。これがなければ只の趣味になってしまいます。知り合いに田んぼをする趣旨を説明して、一緒にやってくれる当事者を探しました。障害を埋める配慮があればできるはずで、どうすればできるかは二人で考えていくつもりでした。さてさてこんな思い付きに付き合ってくれる人は現れるのでしょうか。

その頃から、この田んぼを私一人ではなく、できれば多くの方に見てもらいたくなりました。素人が四苦八苦しながら田んぼを作る。元来、怠け者の私なので、いつ「やーめた！」と自分で言うてしまうか怖かったですね。なので人に見られていけばサボろうとしないんじゃないかと思い代表の許可をもらって facebook にあげていくことにしました。

そんな折、事務所にとある親子がやってきました。

さて次号では素敵な出会いから収穫までのお話です。

かつどう ほうこく
活動報告

へいせい ねん がつ へいせい ねん がつ
平成29年5月~平成29年8月

がつ
5月



がつ
8月



かいじょ いいんかいがっしゅく
JIL介助サービス委員会合宿

よろず!!

けんしゅう
ヘルパー研修④A
しょうがいしゅぎゃくたいぼうしほう とうじしゃたいけん
「障害者虐待防止法と当事者体験」

りじかい
理事会

ひやくまんなつまつ ひろばしゅってん
わっしょい百万夏祭り in ふれあい広場出店

けんしゅう
スタッフ研修

けんしゅう
ヘルパー研修⑥A
「ピアカン・ILPとエンパワーメント」

がつ
6月



こうくうがいしゃ
航空会社スターフライヤー(SFJ)
しゃいん きそけんしゅう
社員カスタマーサポート基礎研修

よろず!!

そうかい せんだい
JIL総会in仙台

がつ
7月



けんしゅう た けんりうんどう
ヘルパー研修⑤A「その他の権利運動」

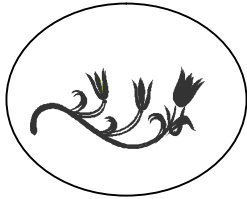
けんしゅう た けんりうんどう
ヘルパー研修⑤B「その他の権利運動」

りんじりじかい
ぶるーむ臨時理事会



テレビで放送されたシンゴジラおもしろかったですね。アニメ版ゴジラもなかなかおもしろそうな感じで楽しみです。 【KII】

■ロゴについて■



この3つが繋がったチューリップには、3J = 「自己選択」「自己決定」「自己責任」の意味と、この北九州の地で自分らしい、いきいきとした花を咲き誇らせてほしい・・・という願いがこめられています。

■会員募集■

自立生活センターの最大の特徴は、運営や各種サービスを「障害者」自らが中心となって行っていることです。これは、「障害者」にとって何が重要かということが一番知っているのは「障害者」自身であると考えるからです。

「自立生活センターぶるーむ」はこの考えのもと、2007年10月に産声をあげました。当団体の活動は、皆さまからのご寄付と会費により支えられています。

ご支援とご協力をお願い致します。

会員種別	年会費
正会員 当法人の目的に賛同し、法人の活動に責任を持って参加していただける個人の方。	3,000円
賛助会員 当法人の事業を資金面などで賛助していただける個人及び団体の方。	5,000円

【銀行振込】 銀行名：西日本シティ銀行 室町支店
 口座名義：特定非営利活動法人 自立生活センターぶるーむ 理事 田中雄平
 口座番号：1694039

編集人 連絡先 NPO法人 自立生活センターぶるーむ
 〒803-0818
 福岡県北九州市小倉北区豎町2-1-5 豎町ビル1F
 TEL 093-562-5431
 FAX 093-583-3257
 E-Mail cil-bloom@nifty.com
 URL <http://homepage3.nifty.com/cil-bloom/>

定価 100円